



主のご復活おめでとうございます



【ペトロ・千葉新司祭からのメッセージ】
 大きな大きなお恵みを頂くとき、嬉しくて、嬉しくて、ただ嬉しくて、自然と涙が溢れるものなのでしょう。そんな体験をさせていただいた叙階式でした。
 司教様、神父様方、両親と姉弟、友人、シスター方、信徒の皆様に見守られて、叙階の秘跡に与ることができました。本当にありがとうございます。また、遠くから心を寄せてくださった多くの方々のお祈りに感謝いたします。
 叙階前の黙想会で指導してくださった神父様が、司祭生活を通して自分と向き合い続けることが求められていると、ご自身の経験から分かち合ってくださいたい。それは素晴らしい、優秀な自分がいるのではなく、弱い自分がそこに「い



ペトロ・千葉 充 新司祭誕生

前日までの雪空が嘘のように青空が広がった3月20日、カトリック北一条教会において、ペルナルド勝谷太治司教司式により、ペトロ千葉充新司祭叙階式が挙行された。当日は道内外から50名を超える司祭助祭神学生、約400名の信徒らが駆け付け、札幌司教区では5年ぶりとなる新司祭の誕生を盛大に祝った。カトリックセンターで行われたティーパーティーでは、多くの参加者が千葉新司祭を祝福し、会場は希望と喜びに包まれた。

る」ことの気付きです。そんな時、ありのままの自分を目の当たりにしても、「そのまま、おいで」と、主が呼びかけているような思いがしました。
 今はまだ、与えられたことの大きさにおののいている最中ですが、ミサを捧げることの喜びを、人々と出会うことの喜びを、そして生きていくことの喜びを、日々分かち合いながら歩み続けていきたいと思えます。
 これまでのお祈りに、心から感謝するとともに、これからの司祭職の歩みのために、引き続きお祈りをお願い致します。

【ペトロ・千葉充神父】(ちばみつる)

1976年7月13日小樽市生まれ。47歳

1977年10月9日住ノ江教会にて受洗

小樽教会住ノ江聖堂閉鎖について 「手造り教会」74年の歴史に幕



2024年1月30日の顧問会(責任役員会)、および2月27日の司祭評議会において、1月29日付で札幌地区長・小樽教会主任司祭(佐藤謙一師)と教会運営委員長より提出されました「小樽教会住ノ江聖堂の廃止のお願い」を受け、検討の結果、小樽教会住ノ江聖堂を閉鎖することとなりました。

長きにわたり、小樽市住ノ江地区において宣教司牧に尽力された方々へ感謝致します。今後の住ノ江聖堂の用途については、小樽教会共同体と共に教区で検討を続けてまいります。なお、4月28日午後3時より住ノ江聖堂での最後のミサを勝谷司教司式のもと執り行います。共にお祈りください。

【住ノ江聖堂】(聖マリアの汚れなき聖心) 1949年小樽市の信徒の増加に対応して新教会を開設するため現在地に土地建物を買収。同年10月初代主任司祭木内藤三郎師着任。直ちに信徒を動員して建物の増改築に着手、11月13日献堂式。(富岡教会から約140名転籍) 引き続き木内氏を先頭に信徒の献身的な働きで、ブロック造りから始めて道路壁、司祭館、聖堂を拡張整備し、1952年11月16日聖堂増築完成献堂式を挙行。「働く神父」に率いられた信徒の汗の結晶による教会で、「手造り教会」と称される。

(札幌司教区昇格50周年記念誌「躍進」より)

新教皇大使の任命について

教皇フランシスコは2024年1月25日付で新駐日教皇大使として、ベネズエラ出身のフランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教 (Archbishop Francisco Gerardo Escalante Molina) を任命したことを発表しました。エスカランテ・モリーナ大司教は現在、ハイチの教皇大使を務めておられます。詳しくはカトリック中央協議会ホームページで▼<https://www.wbcj.catholic.jp/2024/01/25/29002/>

アンドレア補佐司教叙階

2023年12月16日、東京カテドラル聖マリア大聖堂にて、国内外から100名を超える司教司祭の他、500名を超える参加者が見守る中、菊地功大司教主式で、アンドレア・レンボ (Andrea Lembo) 被選補佐司教の司教叙階式ミサが行われました。(叙階式の様子、アンドレア補佐司教のインタビューが掲載された「東京教区ニュース」は東京大司教区ホームページで御覧いただけます。▼<https://tokyo.catholic.jp/>

【教区司祭人事】4月1日付

●札幌地区
○恵庭・千歳 主任 松村繁彦 (江別・大麻・小野幌・新田・岩見沢・北広島・月寒・北一条・真駒内の9教会及び教区事務局長兼任)
・糺島克哉 (主任を解く)
○札幌東ブロック11教会 (江別・大麻・小野幌・新田・岩見沢・北広島・月寒・北一条・真駒内・千歳・恵庭)
・助任 千葉 充 (新司祭)
※協力司祭に変更はありません
○札幌西ブロック
・協力司牧者 Sr.松宮るみ子 (コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会・東京)

おめでとうございます



ダイヤモンド祝
マンフレード師
FRIEDRICH, Manfred
フランシスコ会
1936年7月4日生 87歳
1964年7月26日叙階
滝川教会主任
・旭川地区協力司祭



ダイヤモンド祝
ルカ師
BONAVIGO,
Luca Tarcisio
フランシスコ会
1937年9月1日生 86歳
1964年6月21日叙階
北十一条・北二十六条
・花川教会助任



ダイヤモンド祝
ナルチゾ師
CAVAZZOLA,
Narciso Caesare
フランシスコ会
1939年5月26日生 84歳
1964年6月21日叙階
砂川・美唄教会主任

能登半島支援報告

教区災害担当司祭・ERST 佐久間 力

元旦に起こった能登半島地震災害の支援のために、ERST (緊急時対策支援チーム) として、1月18日～27日、2月12日～19日の2回、現地に派遣されました。石川県を所管する名古屋教区では、金沢教会に「のとサポーター」通称「のとセン」を設置し、そこで教区司祭の片岡神父がセンター長として陣頭指揮をとり、能登の被災地を支援する取り組みが行われています。

この支援はまだ先が長くありません。これからもシノドス的に、「共に歩む教会」として、みなさんの支援が必要です。

2月までの主な取り組みは、毎週日曜日に七尾教会の前に「じんのび (能登地方の方言で『くつろぎ』等の意) 食堂」と銘打った炊き出しをしていて、ここでは現地の人々の生の声を聴ける貴重な機会となっております。また、水道が復旧するまでの間、生活用水などを家庭に配送する「水支援」を中心に、水道復旧と併せて、さらに奥地の能登島 (七尾市) まで支援の手を伸ばしつつあります。

【能登半島地震募金のお知らせ】カリタスジャパン及びカトリック名古屋司教区では能登半島地震の募金を受け付けております。詳しくは各ホームページ、札幌司教区ホームページでご確認ください。被災地の今を伝える「のとサポーター」ブログ▼<https://notosen.blogspot.com/>

現在では、軽トラックを利用して災害廃棄物の搬出支援なども行われています。今後は輪島にも、支援の手を伸ばしていけたらと思っ





「日本のシノドスのつどい」
3月7日～8日
日本カトリック会館

「日本のシノドスのつどい」に、札幌教区から勝谷司教と私たち札幌教区シノドス・チーム（佐久間力神父、荒木関充氏、Sr.宮崎）が参加しました。

今回の集いで印象的だったのは、1日目と2日目に行われた「霊における会話」です。10名ほどのグループに分かれて、あるテーマについてそれぞれ祈ったことを1人3分以内で分かち合っていました。3名ほど発言したところで、1分ほどの短い沈黙の時間を取ります。このようにして一周したあと、二周目は、一周目で他の人が言ったことで印象に残ったことをやはり1人3分程度で分かち合っています。そして最後は、それまで出てきたことなかで同意できる点と同意できない点をまとめていきます。

私たちは普段、誰かと意見が

食い違ったとき、多数決や声の大きい人の意見が通りがちです。しかしこの「霊における会話」では、聖霊の働きをみんなで見ながら、グループとしての意見や思いをまとめていくのです。これはぜひ自分の修道院や職場で、さらには札幌教区全体に広めていきたい方法です。

（殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会・Sr.宮崎妙子）

札幌地区交流会
シノドスの歩みの課題
2月10日・北一条教会

今回の参加者は70名。勝谷司教からシノドスについてのお話があり、以下要約します。

今回のシノドスは、本来の意味である「ともに歩む」を目的に、全世界の地方教会とすべての信者から意見を聴取し、テーマも「シノドスの教会（ともに歩む教会）」のため「交わり、参加そして宣教」です。このシノドスの歩みを続ける上で一つの課題が見えてきました。それは教会内の「ハラスメント」です。深刻なのは、教会内での権威や支配力を持った信徒によるハラスメントです。司祭が教会運営にかかわることが難しくなってきたという現状で、それに代わって指導的な役割を任される信徒にこのような問題があることは教会にとって致命的な問題です。このことについては対応を考えていきます。シノドスの歩みを続けていく上で大切な要素は「分かち合い」と「識別」です。

このあと、カトリックセンターに移動し交流会。コロナ中止期間後久しぶりの開催で親交を深めました。（山鼻教会・能町浄彦）

1月2日、12日、4年ぶりに8人の高校生と1人の高校教員と共にフィリピンミンダナオ島に枯川神父が開設した児童養護施設「イースタービレッジ（EV）」を訪ねた。出発時、羽田空港での大惨事の影響をまともに受け、急遽茨城空港経由、鉄路で羽田へ。すったもんだの出国ステーションを経て実施された。

高校生フィリピンエクスポージャー



目的は「異文化に触れ、それを好きになること」。過去から連続と受け継がれる様々な問題を学ぶことも大切だが、まずお互いのかけがえのなさを認め、好きになつて欲しいとの願いからだ。EVでの日々は、高校生にとって「初めて」の連続だった。バケツから冷たい水をかぶるシャワー、紙の流せないトイレ、見たこともない果物の数々とその食べ方、手掴みでの食事、伝統料理のため飼っていた子豚の屠殺にも立ち会った。一つ一つ戸惑いながら、学び、受け入れ、馴染んでいった。それは一緒に暮らすEVの子どもたちや大人たちのやさしさに支えられていた。いつも誰かが優しい眼差しで見守っていて、一人一人の名前を呼び、そつと寄り添い、手を引いて導いてくれた。「一人でいると声をかけてくれた」「子豚の屠殺のショックで感情が抑えられなくなった時に寄り添ってくれた」：なんとという安心感、心地よさだろうか。おかげで高校生たちも早くからパワー全開で本領を發揮し、友情を育んだ。

お別れの朝、涙声で手を振り続けた高校生たちから、すでに次回のエクスポージャーの問い合わせが届いている。詳細は報告書をお楽しみに。（引率者・鳥居明子）

藤学園と天使学園の 法人合併について

北海道内でカトリックの二つの大学法人であった藤学園と天使学園は、本年4月1日に法人合併し、名称が藤天使学園となりました。

この法人合併は今から30年近く前に天使学園が修道会の手を離れた時から、ずっと構想されてきたことです。その目的は、天使がカトリックの学園として継続できる道をつけることでした。地主司教様も修道会もそれを望んでおられ、それ以後、その実現のために機が熟するのを待っていました。

今、少子化の中で経営を続けることの困難を抱えています。二つの小さなカトリック大学法人が存続のために苦勞するよりも、少し大きな一つの法人となつて、将来のために力を合わせていくのが望ましいと考えております。

今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

(学校法人藤学園理事長・

Sr.永田淑子)

《第8回》 9条世界宗教者会議

今日の厳しい世界情勢の中で数多くの宗教者がその教義&信念を越えて日本国憲法9条の基に沖縄に集まると言う会議に参加させて頂いた。

この会議には「ユースプログラム」として次世代を担う若者たちが参加するプログラムが並行して組まれていた。初日の2月20日は終日現地研修で沖縄戦の跡地や嘉手納基地等を巡り沖縄の厳しい現状を見学。その後19時から開会式に続き岡本厚氏の基調講演を拝聴。岡本氏は「沖縄に学ぶことは【命こそ宝】」と多岐に亘って述べられた。現地研修で沖縄の現状を目の当たりにしたばかりの心に沁みたる内容だった。



参加者たちと（右端が筆者）

翌日21日は9時から始まる会議前にポスターセッションの準備をして参加。午前中に4人の講演を聞き意見交換がなされた。昼食を挟んで自由参加のポスターセッションや動画発表が開催された。自分も事務局が用意してくれた資料を基に交流を行った。

その後16時から具志堅貞子氏（93歳）による沖縄戦体験者の「命は宝」と生き抜いてきた有様を語る姿に涙した。最後に石垣島の市議会議員内原英聡氏の講演で日本政府が民意を無視して軍事施設を既に完成させていた事に衝撃を受けた。

最終日の22日は全体会議で今後宗教者として何が出来るか意見を出し合った。その後ユースプログラムに参加した若者達の平和への祈り等を聞き「共同声明」を発表。引き続き参加者全員「平和行進」に参加。安里教会からおもろまち新都心の公園まで約40分、NCC議長吉高叶氏が拡声器でアピールしながら先頭を進み参加者は各々のプラカードを掲げて行進。この後、オプシヨンの現地研修に参加し平和祈念資料館等を見学し全て

の行程を終了した。

この会議に参加して憲法9条が日本だけのものではなく近隣諸国をはじめ世界から平和の目標として期待されている事を深く理解した私は、非暴力と対話による平和への声掛けを微力ながら発信して行きたいと思う。（北見地区正義と平和協議会・山田恵子）

憲法講演会 改めて憲法9条を考える

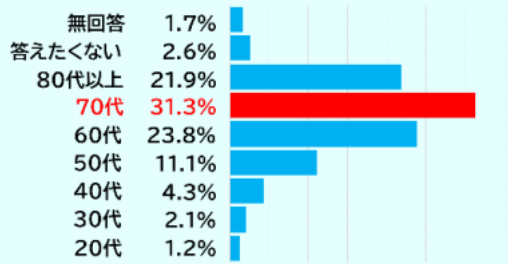
神保大地弁護士による憲法講演会「ウクライナ戦争と岸田大軍拡の中で、あらためて憲法9条を考える」が2月24日（土）、カトリックセンターで開催され、悪天候にもかかわらず会場とオンライン併せて52名が参加した。

ロシアや中国、北朝鮮などを脅威とし、2022年に閣議決定した改定安保関連三文書により、戦後初の防衛費増税（5年間で合計43兆円超）や敵基地攻撃能力（ミサイルや戦闘機など）の保有が進むことで、2027年には米国、中国に次いで日本が世界第3位の軍事大国になるという。だが中国はもつと軍事費増額が可能なので、日本がどれだけ軍拡しても安心は得られないのだ。もし中国と戦争になつたら日本に食料が入って来なくなり、すぐに立ち行かなくなるだろう。ウクライナ戦争をみて、戦争は一旦始まると終わるのが難しい。だから戦争を始めないのが最善の方法となる。戦争を仕掛ける側にならないためには、武器をもたない、軍隊はもたない（9条）だ。相手国に攻める理由を作らせないためには、自国から軍事的な圧力はかけない。周辺国と仲良くし、経済的協力関係をもつことが重要と強調。つまり古いどころか憲法全体が戦争を防ぐ道となるのだ。

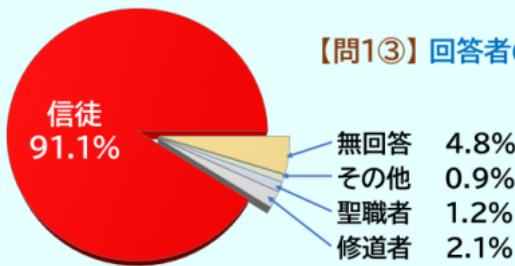
今回の講演で憲法を巡る多くの学びが得られた。（札幌教区正義と平和協議会・藤田春美）



【問1②】回答者の年齢



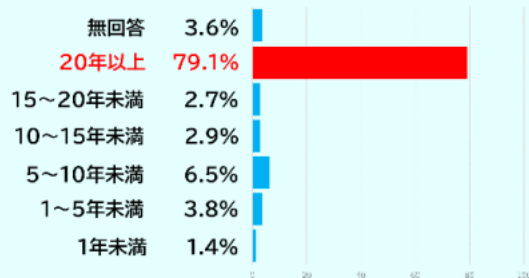
【問1③】回答者の立場



【問1④】現教会の所属年数

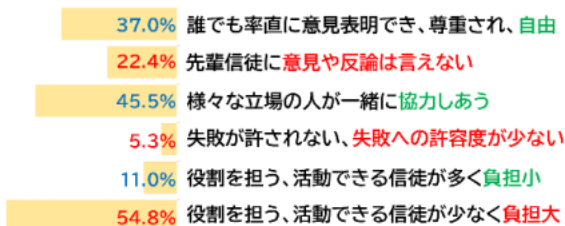


【問1⑤】受洗後の年数



【問2】あなたの所属する教会の特徴としてあてはまるものはどれですか

(複数回答)



ハラスメントのない教会共同体をめざして ～教会におけるハラスメント意識調査～

まとめ【前編】

日本カトリック司教協議会は、2021年2月17日「未成年者と弱い立場におかれている成人の保護のためのガイドライン」を公表。これによって、日本の全教会で宣教や司牧に携わるすべての人（聖職者・修道者・信徒・職員・ボランティアを含む）が未成年者（弱い立場におかれている成人も含む）の権利擁護並びに保護を確かなものとするために、あらゆるレベルでの取り組みを促進することとなった。

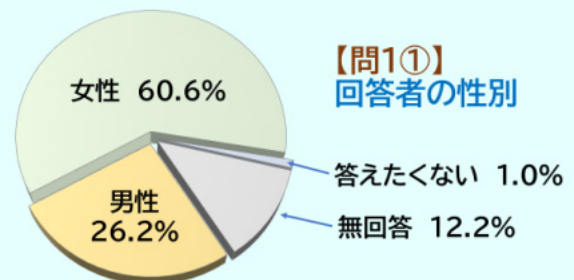
このことからカトリック札幌司教区ハラスメント対応デスクでは、新たな体制づくりと今後の啓発活動のため標記調査を実施した。

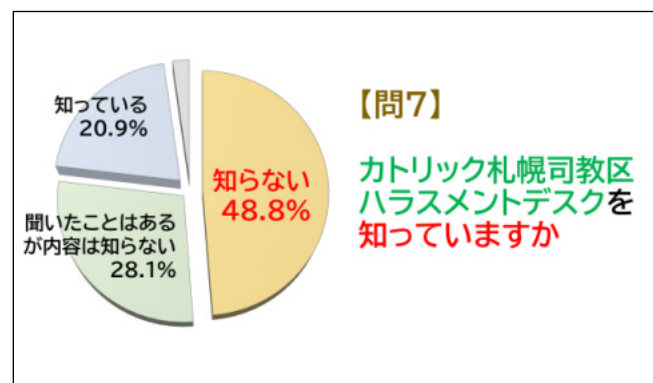
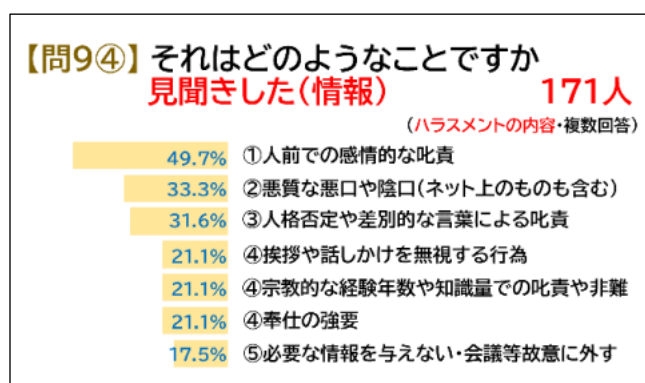
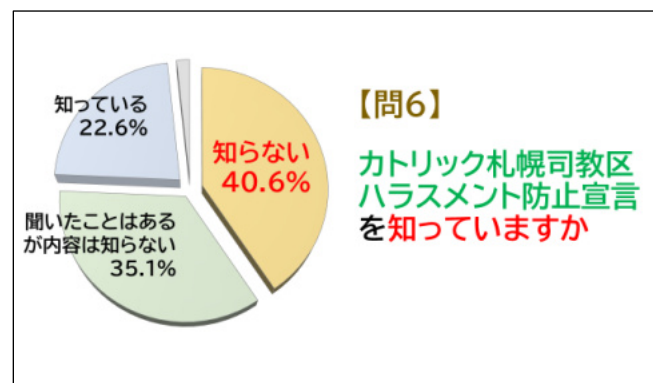
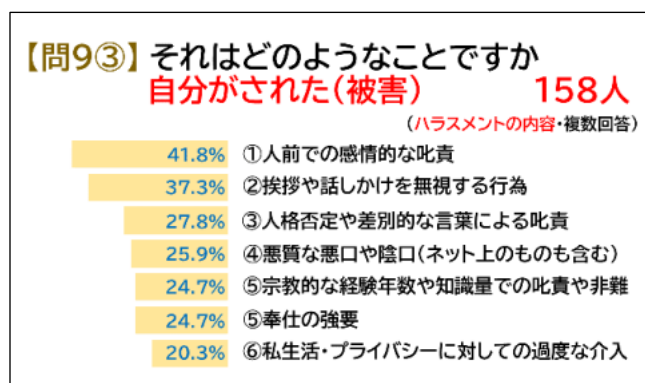
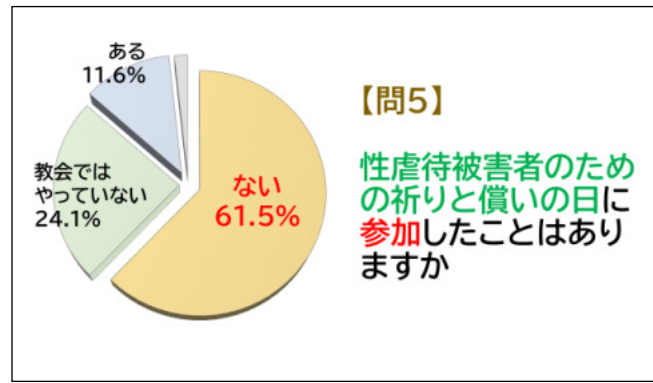
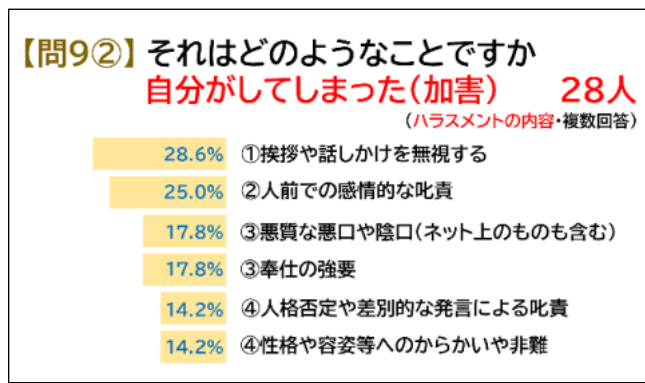
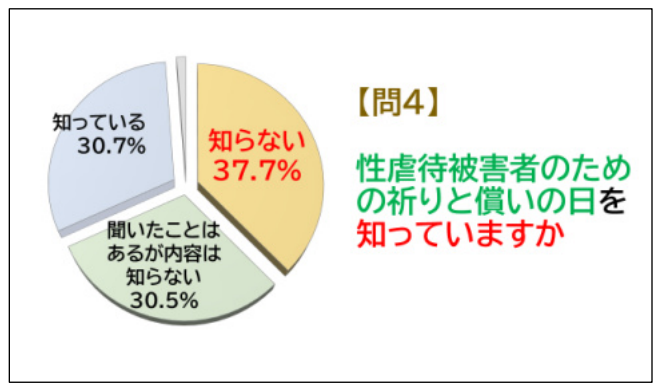
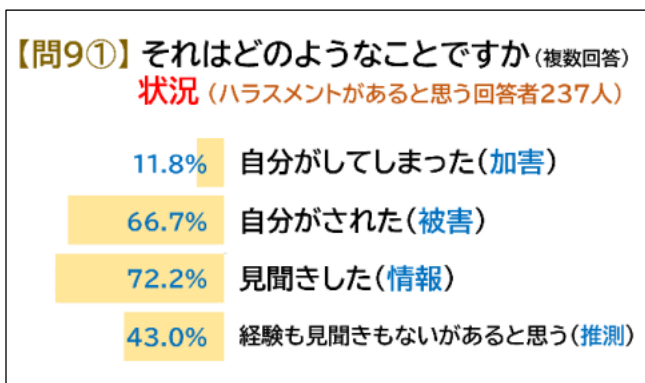
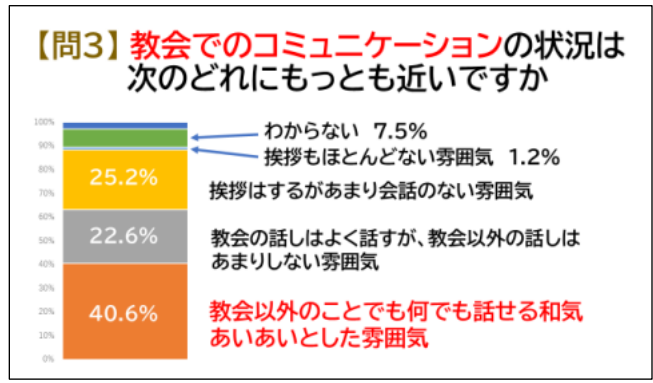
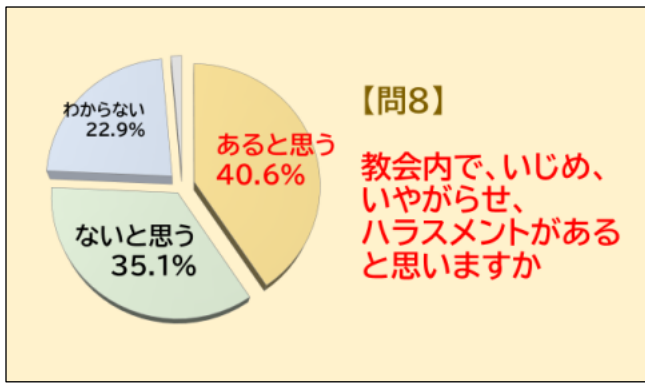
まとめの【前編】は、全調査項目の集計結果と寄せられた具体的なハラスメント事案を紹介。まとめの【後編】（次号）は被害者の声を中心に、今、何が問題なのかを探る。

【調査概要】

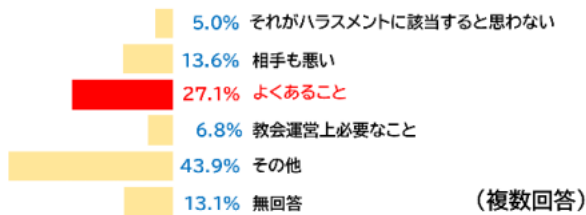
- (1) 実施主体
カトリック札幌司教区ハラスメント対応デスク
- (2) 調査対象
カトリック札幌司教区内の聖職者・修道者・信徒・求道者等
- (3) 調査期間
2023年7月1日～11月30日必着
- (4) 調査方法
無記名調査票（教区着払封筒添付）及びWEBによる任意自由回答
- (5) 調査票配布数
全小教区他4,741枚他WEB公開
- (6) 回答数：584（WEB回答9含む）
- (7) 回答率：12.3%

【問1①】回答者の性別



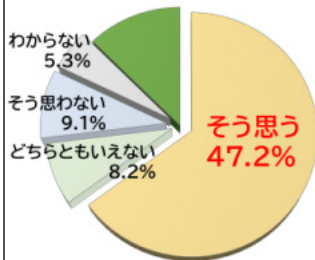
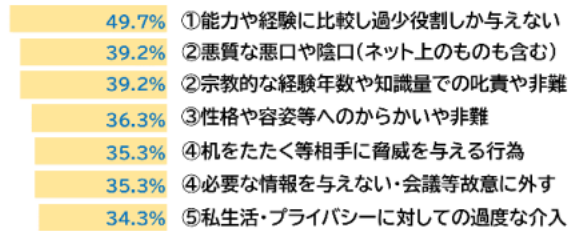


【問12】ハラスメントを「した」「受けた」「見聞きした」回答者221人▶あなたはどのような行為についてどう思いますか



【問9⑤】それはどのようなことですか 多分あると思う(推測) 102人

(ハラスメントの内容・複数回答)

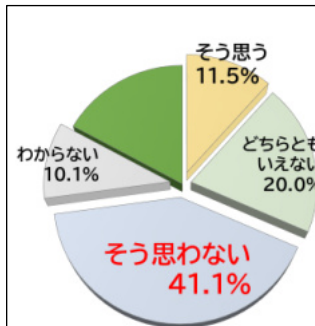
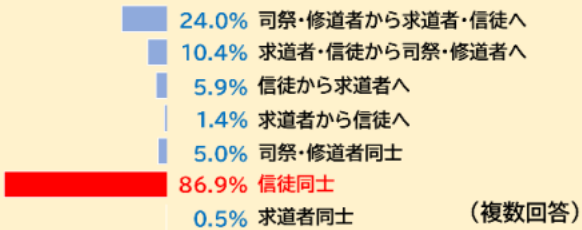


【問13】(1) 教会でのいじめ・いやがらせ・ハラスメントについてどう思いますか

誰もが加害者や被害者になるかもしれない身近な問題だ

【問10】どのような関係で行われましたか

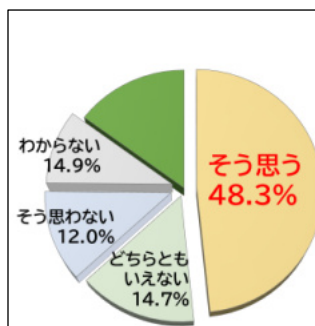
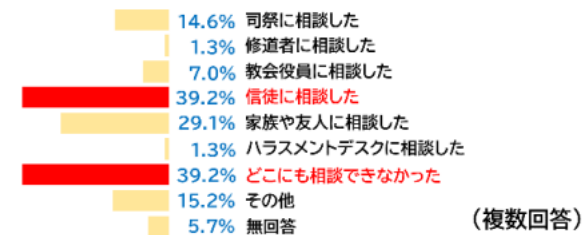
(ハラスメントを「した」「された」「見聞きした」回答者221人)



【問13】(2) 教会でのいじめ・いやがらせ・ハラスメントについてどう思いますか

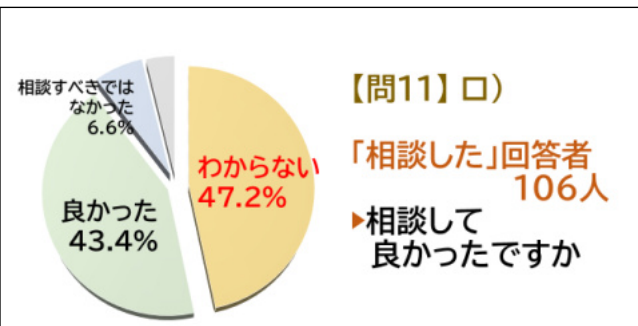
いじめられる側にも問題がある場合が多い

【問11】イ)あなたはその後どう行動しましたか (ハラスメントを「された」回答者158人)



【問13】(3) 教会でのいじめ・いやがらせ・ハラスメントについてどう思いますか

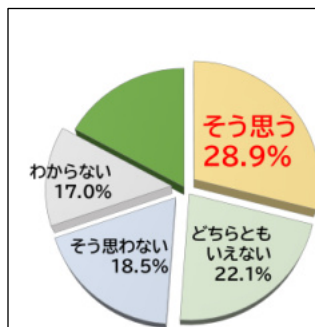
教会だけではなく社会全体にその原因がある



【問11】ロ)

「相談した」回答者 106人

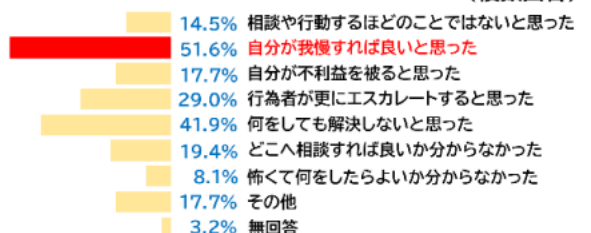
▶相談して良かったですか



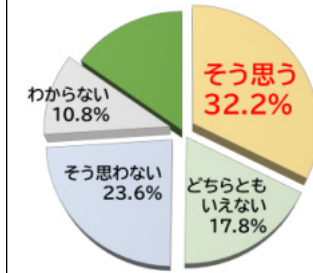
【問13】(4) 教会でのいじめ・いやがらせ・ハラスメントについてどう思いますか

家庭環境や親の教育の影響が大きい

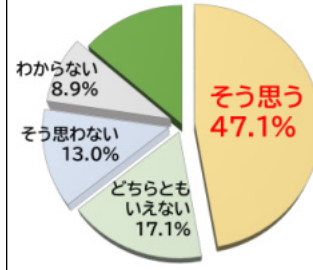
【問11】ハ)「どこにも相談できなかった」回答者62人▶それはなぜですか (複数回答)



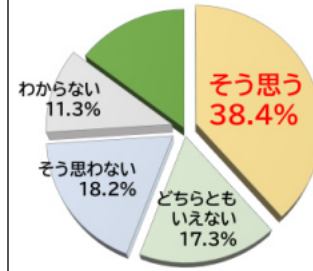
【問13】(5)
教会でのいじめ・いやがらせ・ハラスメントについてどう思いますか
教会の雰囲気や左右される問題だ



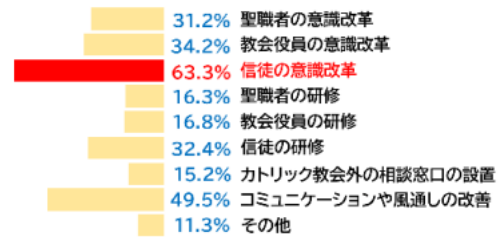
【問13】(6)
教会でのいじめ・いやがらせ・ハラスメントについてどう思いますか
個人の性格やキャラクターの要素が大きい



【問13】(7)
教会でのいじめ・いやがらせ・ハラスメントについてどう思いますか
人との相性の要素が大きい



【問14】教会でのいじめ、いやがらせ、ハラスメントを防止するために必要な措置はなんだと思いますか (複数回答)



担当者からの批判 * 選んだ霊名に対する批判 * 司祭から突然怒鳴られた * ミサに出ようとする人への差別 * 教会に来ることを強要される * 司祭がゆるしの秘跡を中断退席した * 典礼の勉強をしないのに幅をきかせる * 神父が一つのグループと仲良くなりそのグループからの嫌がらせ * 先輩求道者から「教会に来るな」と何度も説教された * 信者から司祭へのパッシング

▼ジェンダーハラスメント

* 「女性で教会役員になるとはね」と言われた * 「男はね」と会議で行動の正当性を主張する * 男性から「お前」よばわりされた * 女性蔑視の発言と態度

▼差別関係

* 障がいを感じている人・知的障がい者・教会訪問者・外国人信徒への差別 * 精神障がい者の排除

調査票及び調査結果については、教区ホームページからダウンロードできます。分かち合い等で是非ご活用ください。

▼パワーハラスメント

【パワーハラスメントの規程である、①優越的な関係に基づいて②活動の適正な範囲を超えて行われ、③身体的もしくは精神的な苦痛を与えること、または信仰環境を害することに該当するとと思われる事項のみを掲載】

* 司祭によるパワハラ * 下位者の意見を無視するか恫喝する * 個人名を挙げて運営委員会で非難された * 有給職員からのパワハラ * 台所の使用制限

* 信徒会長男性から侍者への感情的な人前での叱責

▼セクシュアルハラスメント

* 「元気をもらいたいから」と異性信者に手を握られた * 司祭によるセクハラすれすれの行為 * 信徒から酔った勢いで個人的連絡 * 若い頃邦人聖職者からハグする感じで抱かれ嫌な気持ちになった * 子宮摘出手術をした方に「じゃあもう女じゃないんだ」と言う聖職者

* 教会であるお手伝いの時に男性信徒からお尻をつかまれた

▼児童性虐待・児童虐待

* 子どもの頃神父にキスされた

▼宗教的ハラスメント

* 教会活動が少ないと言いつらされる * 役員から「周りが見えるようになってから物を言いなさい」と言われた * バザーの寄贈を強要された * 献金納入袋を書き換えられた * 典礼

【問9】「教会内で、いじめ、いやがらせ、ハラスメントがあると思う」と回答し「その他」に記された具体的経験は次の通り。(抜粋・場所や人物特定がされないよう文章は一部修正)

▼一般的ハラスメント

* 仲間以外を無視する * 根も葉もない噂をたてられる * 自分とは反対の意見が気に入らず怒鳴る * 自分の思い通りに仕切ることができないと度々担当者に対して感情をむき出しに怒鳴る

日本カトリック神学院再興の経緯

2009年3月まで日本には「東京カトリック神学院」と「福岡サン・スルピス大神学院」の2つの神学院があり、養成方針が異なっていました。東京では東京教区管区（札幌、仙台、新潟、さいたま、東京、横浜）と大阪教区管区（名古屋、京都、大阪、広島、高松）の各教区司祭が任期3年（複数期可）で司祭養成を担う形でした。福岡では長崎教区管区（福岡、長崎、大分、鹿児島、那覇）の教区司祭養成をサン・スルピス会が任ざっていました。サン・スルピス会とは教区司祭養成のために設立されたカトリック教会内の教育団体です。東京は神学生の自主性に任せられ、福岡では規律に従った生活が重んじられていました。

神学生の減少から2009年4月には「日本カトリック神学院」として日本の16教区の共立神学校としてスタートしました。東京と福岡のキャンパスをそのまま利用し、サン・スルピス会の養成方針にしたがって司祭養成を行うこととなりました。哲学科2年間を東京で過ごし、神学科3年間を福岡で過ごし、最後の1年間の助祭コースを東京で過ごすこととなりました。ところが2つのキャンパスによる弊害として共同生活をしない学年が出てくるということがありました。例えば、わたくし佐藤と蓑島神父は神学校で共同生活をしておりません。2018年4月に向けて東京か福岡のどちらかで神学校生活を送るようにする検討をしておりますが、結局「東京カトリック神学院」と「福岡カトリック神学院」に分離独立し、それぞれにおいて6年間の共同生活を送ることとなりました。

しかし、神学生の減少は著しく、福岡では3名になってしまい新規入学者もおらず、東京も18名の在生者と3名の新規入学者しかいないことから2024年4月から東京に吸収合併することにし、あらためて「日本カトリック神学院」として再興することとなりました。これによりサン・スルピス会は司祭養成から撤退することとなりました。

札幌教区のビン神学生は1年間休学しますが、2025年4月からの復学に向けて日本語の勉強にいそんでおります。新しくなった神学校での学びを再び始めることができます。ようお祈りいただきたいと思えます。（教区神学生養成委員会・佐藤謙一）

2020年春、カリタス家庭支援センターと共に「新型コロナウイルスによる生活困窮者への特別寄付」を始めた時、とりあえず今できることからという思いだった。幸いなことに特別寄付に多くの方が関心を寄せて下さったことから、アルバイトを失い、学費を払えなくなった留学生への学費支援も始めた。

1回限りの支援もたくさんあったが、その中に、日本語学校を卒業して、札幌市内の大学に進学したばかりの学生が数名いた。彼らは、日本語学校に通いながら、アルバイトを掛け持ちして、生活費と入学金と1年前期の学費を準備して支払っていた。大学に入学しても同じようにアルバイトを続ける生活をしているが、学費を準備するつもりでいたが、コロナにより生活費さえもままならない状況となっていた。あれから4年。日本語学校は、日本語を学ぶ外国人しかいなかったが、日本人と友達になりたいと夢見た外国人留学生たちは、オンラインばかりでなかなか友達もできず、寂しい思いもしながら、この春無事卒業する。母国に帰る人も


いれば、札幌で就職を決めた人もいた。前期と後期の学費支援の度に合わせて近況を聞き、4年間の成長を感じていたので、旅たちの時はやはり少し寂しいが、これからはっきりお給料をもらい、お金を心配から解放されることを喜んで欲しい。

学業に専念して欲しいと思い、学費をずっと支援し続けてきたのには、継続支援をして下さった方々の寄付があったからこそできたことなので、心から感謝を申し上げたい。また、支援を受けた彼らだけでなく、彼らのご両親も心から感謝していると聞いている。ある青年は、忙しいのを理由に日本では教会に行っていないが、しかし、この学費支援をきっかけに北一条教会で行われている英語ミサに来るようになった。そして、オンライン配信されているこのミサに母国の母親も参加するようになり、ちらつと映る息子を楽しみたていたそうだ。彼らの未来のために祈ってください！

（札幌教区難民移住移動者委員会・西 千津）

ともなまはる

春・旅立ちの時




Sr.M. アナスタジア
福井 みつ子

2月5日早朝、月形藤の園にて神様のみに召されました。94歳。

【略歴】

- 1929年4月4日生まれ
- 1948年3月27日受洗
- 1956年4月16日入会
- 1964年9月23日終生誓願
- 2018年11月3日ダイヤモンド祝



Sr.M. リザコ
鈴木 智

1月28日夜、月形藤の園にて神様のみに召されました。91歳。

【略歴】

- 1933年1月4日生まれ
- 1933年1月7日受洗
- 1953年3月21日入会
- 1963年8月12日終生誓願
- 2017年11月23日ダイヤモンド祝

訃報

◆殉教者聖ゲオルギオの
フランシスコ修道会

2023年カトリック札幌司教区教勢報告書

2023年1月1日～12月31日

教区総面積	78,421 km ²	(北海道地勢2023年12月31日現在)
教区総人口	5,139,913 人	(住基台帳人口2023年12月31日現在)

		※ () は前年値
在籍信徒数	14,046 人	(14,958 人)
教役者合計	285 人	(298 人)
信者総数	14,331 人	(15,256 人)
求道者数	64 人	(67 人)
洗礼者数	91 人	(86 人)
初聖体	47 人	(49 人)
堅信	54 人	(49 人)
居所不明	831 人	(1,439 人)
死者	243 人	(232 人)
婚姻件数	15 組	(41 組)
信徒同士	3 組	(4 組)
信徒と他キリスト教	0 組	(0 組)
信徒と非キリスト教	9 組	(31 組)
他宗教同士	3 組	(6 組)

教会名	信 徒 数				異 動					
	男	女	合計	居所不明	転入	転出	幼児洗礼	成人洗礼	死者	求道者
1 岩見沢	103	144	247	0	3	5	0	2	6	1
2 恵庭	46	54	100	3	4	0	1	0	0	0
3 江別	49	72	121	8	1	2	0	1	2	1
4 大麻	94	134	228	44	1	2	0	0	3	0
5 北一条	226	417	643	57	9	160	1	12	19	11
6 北十一条	578	953	1,531	18	14	264	1	1	18	5
7 北二十六条	261	409	670	1	4	4	2	9	13	1
8 北広島	182	296	478	60	5	3	1	5	4	0
9 倶知安	29	46	75	4	1	3	1	0	0	0
10 小野幌	178	292	470	51	2	3	0	1	9	0
11 新田	52	81	133	11	3	1	0	0	3	0
12 小樽	69	203	272	26	3	30	1	3	11	0
13 千歳	61	121	182	0	0	1	0	1	3	0
14 月寒	223	391	614	0	11	6	6	3	18	3
15 手稲	151	220	371	0	2	57	0	1	4	0
16 花川	71	108	179	8	0	1	0	0	0	1
17 真駒内	216	344	560	93	3	1	2	2	6	1
18 円山	357	615	972	55	8	10	0	2	9	1
19 山鼻	227	381	608	0	20	4	0	1	14	2
札幌地区計	3,173	5,281	8,454	439	94	557	16	44	142	27

教会名	信 徒 数				異 動						
	男	女	合計	居所不明	転入	転出	幼児洗礼	成人洗礼	死者	求道者	
20	江差	1	8	9	0	2	0	0	0	0	0
21	当別	59	72	131	40	0	0	0	2	2	0
22	宮前町	243	370	613	67	5	15	2	4	19	0
23	元町	78	151	229	0	0	1	0	0	10	1
24	八雲	24	48	72	10	0	0	0	0	0	0
25	湯川	201	335	536	0	2	0	0	0	15	0
函館地区計		606	984	1,590	117	9	16	2	6	46	1
26	網走	27	28	55	0	0	4	2	1	1	1
27	遠軽	13	16	29	0	0	0	0	1	1	2
28	北見 ※2	66	145	211	23	2	1	0	2	6	4
29	紋別	6	6	12	0	0	0	0	1	1	2
北見地区計		112	195	307	23	2	5	2	5	9	9
30	旭川五条	102	164	266	9	4	7	0	1	4	0
31	旭川六条	95	151	246	0	0	2	0	0	6	1
32	枝幸	9	5	14	10	0	0	0	0	2	0
33	大町	54	118	172	0	0	1	1	0	4	0
34	神居	41	61	102	59	1	1	0	0	4	0
35	士別	18	25	43	0	0	0	0	0	1	0
36	砂川	22	45	67	0	1	0	0	0	1	8
37	滝川	47	70	117	0	0	0	0	2	0	3
38	名寄	24	53	77	0	0	0	0	0	2	0
39	羽幌	10	16	26	0	0	0	0	0	0	0
40	美唄	16	43	59	2	0	0	0	0	3	8
41	富良野	27	46	73	4	0	0	0	2	0	2
42	留萌	55	97	152	12	0	0	0	0	0	0
43	稚内	41	41	82	36	0	0	1	0	4	0
旭川地区計		561	935	1,496	132	6	11	2	5	31	22
44	池田	19	34	53	0	1	0	0	0	0	0
45	帯広	158	229	387	0	1	1	1	2	2	0
46	釧路 ※3	223	339	562	13	0	8	0	3	4	3
47	中標津	57	99	156	28	0	1	0	0	1	0
48	根室	5	20	25	1	0	0	0	0	0	0
49	柏林台	79	123	202	33	0	0	0	0	1	0
50	本別	10	13	23	0	0	0	0	0	0	0
釧路地区計		551	857	1,408	75	2	10	1	5	8	3
51	苫小牧	97	172	269	0	1	220	0	1	2	1
52	静内	19	17	36	3	1	1	0	0	1	0
53	伊達	61	111	172	25	2	0	0	0	1	0
54	登別	32	38	70	1	0	0	0	0	1	0
55	東室蘭	33	89	122	2	0	3	1	0	2	0
56	室蘭	43	79	122	14	0	2	0	1	0	1
苫小牧地区計		285	506	791	45	4	226	1	2	7	2
合 計		5,288	8,758	14,046	831	117	825	24	67	243	64

※1 2022年度分より居所不明10年以上の場合は転出扱いとなり信徒総数より差し引くこととなった。

※2 (巡)美幌教会含む ※3 (巡)厚岸教会含む

愛されている兄弟姉妹と共に祈り働く

聖ベネディクト女子修道院



室蘭市水元町にある共同体は、97歳を頭に71歳までの10人の小さな共同体です。今年で来日74周年を迎えた修道院の成り立ちは、計画的に創立されたものではありませんでした。

かつて中国が、宗教者を国外追放した時、北京には私たちのルーツとなるドイツの流れを汲むアメリカのミネソタ州聖ヨゼフ修道院から派遣されていた6人のシスターがおりました。北京から台湾に避難していた時の事、日本行きが2枚の船便切符しかなく、2人だけが未知の国、日本へ渡ることとなり、横浜港に足を踏み入れたのは、74年前の6月でした。本部から2人はすぐにアメリカに戻るよう指示を受けましたが、進駐軍の婦人に中華料理教室、さらに英語やピアノなどを教え、日本で活動を続け帰国しなかった事が始まりとなりました。

室蘭市水本町にある修道院



北海道への第一歩は夕張でした。そのきっかけは67年前、気候や風土が母国のミネソタに似ている事とメリノール宣教会からの声掛けでした。当時の夕張市は人口10万人、宣教活動のための人手が必要だったのです。このため日本人シスターの養成が必要となり、夕張市清水沢に修道院を開き修練者の養成を開始しました。

1961年には室蘭市の希望によって高等学校、幼稚園と教育事業に関わりました。さらに、18年後、札幌の小野幌教会の近くに新しい共同体を作り教区の幼稚園に派遣されました。しかしその30年後、札幌の副都心として急激な都市開発が進み、当院の長期計画なども併せ論議の結果、2008年に最終的に室蘭市を選び、今はたった一つだけの共同体になっています。

遡って1985年、ミネソタの

母院から離れ独立修道院になり、日本人の共同体になりました。現在の場所最近、野生動物が多く、たとえばリス、鹿、アライグマ、狸、狐が出没するので、お祈りのため聖堂に集まると、窓の下に鹿の親子がいたので見入ってしまいます。たとえば、小さくても、呼ばれた土地この場所で、教会と共に祈り、喜びと希望を持って働いております。



あとかたり 編集後語

今年、ご復活に加え、千葉新司祭の叙階式、恒例の幼稚園卒園感謝の祈りの会と卒園式等々、例年になく走り

回る年度末となりました。函館地区に赴任して3年目を迎え、気が付けば地区内のカトリック幼児施設の全てに係らせていただき、この4月からは祐川神父、李神父と共に函館百合学園高等学校の宗教授業のお手伝いもさせて頂いたことになりました。ありがたいことではあります。ありがとうございます。藤学園事務局に奉職して以来を振り返ると、学園からシスターの姿は見えなくなり、校長・園長も。所によっては教職員の中に一人も信者のいない施設も見受けられる現況となり、寂しい限りです。

しかし、訪問する都度、子ども達の元気な、ひたむきな祈りの声を聞くのは、お恵みです。未だ宣教地である日本にあって、しっかりと認知され続けるミッションスクールに係わらせていただく幸せが身に染みるイースターの季節となりました。

(桶田達也助祭)